

414
A3223
2



現令廟堂、論議、直接、頃易、方畧、一定、之既
 其端緒、ヲ開、キ、タ、リ、ト、雖、凡、基、礎、措、未、ク、確、立、セ、
 ス、動、モ、ス、レ、ハ、論、緒、紛、亂、ノ、勢、アル、ヲ、免、カ、レ、ス、轉、
 シ、テ、各、地、方、製、産、者、ノ、狀、勢、ヲ、察、ス、ル、ニ、有、志、ノ、輩、
 日、ニ、四、方、ニ、振、起、シ、協、同、團、結、競、フ、テ、直、接、ノ、事、業、
 熱、中、シ、其、勢、殆、ト、抑、制、シ、難、キ、ノ、狀、アリ、此、時、
 當、リ、テ、政、府、苟、モ、敢、行、ノ、果、決、ニ、勇、ナ、キ、ハ、人、
 氣、忽、チ、沮、喪、シ、再、ヒ、之、ヲ、統、治、ス、ル、ニ、難、カ、ラ、ン、仍、
 テ、三、大、要、綱、ヲ、列、記、シ、每、綱、ニ、小、目、ヲ、附、シ、以、テ、遂、
 然、政、府、ノ、決、行、ア、ラ、ン、ヲ、切、望、ス、

第一綱

天正十一年四月

直接貿易ノ事宜シリ明治十三年ヲ期シ断然實行ノ基礎ヲ定ム可シ其功用ノ目六ツアリ左ノ如シ

第一目

直接ノ貿易ニ依リ以テ内商及ヒ製産者カ通弊シル衣類ノ精神ヲ減縮セシメ漸次固有ノ高權ヲ恢復スルニ至ル可シ

第二目

今ノ貿易ハ常ニ外商ノ権理ヲ抑壓セラレ内商ハ皆甘シテ束縛ノ下ニ在リ墮ツテ卑屈ハ心ヲ長シ益ス外商ノ信用ヲ失ハリ故ニ直接ノ貿易ヲ開キ勇進シテ卑屈ノ心ヲ脱ス可シ

第三目

貿易上最モ緊要ノ主眼ハ只信用ヲ得ルノ如何ニ在ルニ故ニ今貿易ノ利益ヲ直接ニ占ムル中ハ製産者ハ皆自カニ物品ノ改良ヲ謀リ不正不實ノ品ヲ作ラズ初メテ信用ヲ得ルニ至ル可シ

第四目

近時年々正貨ノ流出スルモノ凡ソ七百萬圓内外トス是レ則チ輸出品ノ不足ナルニ因レルモノト雖モ又他ニ一原因アリテ多ク相助ルモノアリ即チ外國ノ為替金ナリ此事固ヨリ貿易ノ輸出入ニ關係無シト雖モ其相場高低ノ差及ヒ手数料保檢料等

如キ者ス々外商ノ利益ニ歸スルモノ甚
 シトセス自今直接ノ道開クルニ及ンテハ
 為替上損失ノ金額ハ全ク減少シ隨ツテ流
 出ノ總額ニ自カラ多ク減少ヲ致ス可シ
 要スルニ金額ニ就キ損益ノ多ク論スル
 ハ未ニシテ且シク權理恢復ノ大點ニ於テ
 得ル所ノ利益ニ著意スベシ

第五目

年々流出スル七百萬圓ハ非常驚リ可キ多
 額ト云フニハ非サルモ之ヲ以テ内地流用
 ノ紙幣一億數千萬圓ニ對スレハ非常ノ
 係ヲ有スルモノニシテ恰モ年々輸出ノ卵
 紙ト其景況ヲ同フセリ輸出ノ卵紙亦固ヨ

第六目
 内地各製産者ノ貿易ニ於テ利益トスルハ
 物品ノ真價ヲ得ルニ在リ真價ヲ得ルハ物
 リ驚リ可キ多數ニ非サルモ内地製出ノ生
 糸ニ對スレハ其關係極メテ小ナラス何ン
 トナレハ卵紙ノ輸出サシク勢ヲ得レハ
 地需用ノ蠶種ニ改良ノ意ヲ用ルモノ少
 ナク隨ツテ生糸ノ品質或ハ不良トナリ甚
 シキ損害ヲ招リテアリ今七百萬圓ノ流出
 モ亦此理ニシテ大ニ紙幣ノ價格ニ關係ヲ
 生シ財政ノ困難ヲ招リテ極メテ大ナク故
 ニ救済ノ法ハ只貿易ノ道ヲ直接ニ求メ物
 品ヲ改良シ真價ヲ得ルニ外ナラサルナリ

品ノ改良ニ因ルニツノ者終始相伴フ近時
西洋ノ物品内地ニ入ルモノ年一年ヨリ多
キヲ加フルハ他ニ非ス彼レ能ク我レハ嗜
好ヲ察シ進ンテ直接ニ販賣スルニ因ル之
レニ及シテ我物品ノ輸出少キハ毫モ彼レ
ハ情勢ヲ詳ラカニセズ直接販賣ハ道無キ
ニ因ル故ニ今直接ニ販賣シ能ク彼レノ情
實ヲ知ルヲアルハ生糸ト云ヒ茶ト云ヒ海
產地出皆能ク真正ノ價格ヲ得益ス販賣ノ
量ヲ増シ利益愈ヨ多ク物品愈ク改良ニ赴
リ可キナリ

以上六目ノ外指細陳ス可キモノ枚舉シ難シ
ト雖氏皆省畧シテ掲ケス抑モ亞細亞洲中國

ヲ立ツルモノ大小十ヲ以テ數フ而シテ其國
勢ヲ察スルニ皆萎靡軟弱甘シテ卑屈ニ安ン
シ大ニ信ヲ西洋諸國ニ失ヒ其凌侮ヲ受ケサ
ルモノ無シ皆只獨立ノ名アリテ對峙ノ實無
キナリ他ノ諸國ハ姑ク是レヲ舍テ獨リ我國
ノ西洋諸國ニ於ケルヤ交際上ノ表面ニ就キ
テ考フルハ其敬禮歡心ヲ得ルノ甚ク厚キ
ハ帝ニ東洋諸國ニ其比類ヲ見サルノミナラ
ス歐洲中ト雖氏亦決シテ比類無キナリ然レ
氏萬國交際上敬ヲ盡シ禮ヲ致スハ事ノ最モ
為シ易キモノナリ元ツ萬國交際ノ要訣ハ只
貿易權理ノ擴張伸縮ニ外ナラス權理擴張ス
レハ國自カテ富シ兵自カテ強シ國既ニ富強

實ヲ得レハ和戰盟約皆我カ意中ニ歸シ平
時表面ノ交際固ヨリ恃ムニ足ラサルナリ賀
易ノ權理ヲ擴張シ伸縮スル責ソハ主トシテ
農工商ノ三者ニ在リ三者ニシテ苟モ其卑屈
ナレハ必ス外商ノ抑壓ヲ甘ンス抑壓ヲ甘ン
スレハ益ス其志ヲ卑屈ニシ其製品ヲ粗惡ニ
ス製品粗惡ニ流ル遂ニ益ス信用ヲ失ヒ常ニ
輕侮凌辱ノ下ニ在リテ貿易上固有ノ權理ヲ
恢復スルヲ能ハス豈ニ慨然ソラハル可ケン
ヤ故ニ今ノ貿易者流ハ先ツ卑屈ノ志ヲ去リ
真誠直實ノ精神ヲ養ヒ勉メテ商權ヲ恢復ス
ル策ニ出テサル可カラス然ルニ今ヤ朝野
論議徒ニ條約改正ノ一點ニ傾キ商權伸張

ノ事ニ及ハサルハ抑モ何ソヤ設ヒ空莫タル
論理ニ據リ百方改正ヲ求ムハモ苟モ貿易上
萬國ノ信ヲ得テ其實利ヲ占ムルニ非ラズン
ハ改正ノ事決シテ望ム可カラス方今我國貿
易者流ト外商トノ状態ヲ比スルハ外商ハ
獨三井大丸等ノ諸店ノ如ク内商ハ極雜小ノ
古著店ニ似タリ三井大丸ノ諸店ハ堅シ大方
信用ヲ得老幼婦女ニ對スルモ其賣價ニ
三ニセズ以テ益ス其取引ヲ威ンニス古著店
ノ如キハ詐偽百出益ス其信用ヲ失ヒ其物品
ヲ粗惡ニシ以テ奇利ヲ條理ノ外ニ釣ラント
ス其業体ノ相懸隔スル固ヨリ明ラカナリ故
ニ自今貿易ニ從フ者ハ勉メテ心術ヲ正シ

物品ヲ改良シ勇進奮勵直接販賣ノ道ヲ求メ
漸次商權ヲ恢復スルノ精神ヲ抱リ可シ直接
ハ貿易ニ依リ實際其識見ヲ廣メ其氣象ヲ卷
ク時ハ一國ノ權カニ就キ間接裨補ハ切何ソ
帝海陸數軍ハ甲兵ト其權衡ヲ同スルハ
大ラシキ現令條約改正モ初メテ其端緒
ニ就リテ得可キナリ然ルニ動モスレハ迷勝
論者往々怪異ノ説ヲ為スモアリ其言ニ
現今歐洲中佛蘭西自耳義等ノ諸國ハ英蘭ノ
諸商ニ依リテ貿易ヲナシ敢テ直接ノ事業ニ
從ハス佛白如キモ楯且ツ然リ何ソ擱リ日
本ノ直接貿易ニ利アリトセンヤト是レ最
モ淺陋齒牙スルニ足ラサル論ナリ試ニ思

ハ佛白二國ハ歐洲ニ在ルヤ何等ハ國柄ニシ
テ交際條約ノ權理ハ他ノ強國ト對等ナラザ
ルカ内地製造ノ威不威ハ如何ナルカ物品販
賣ノ權理ハ彼レ自カラ掌握スルカ或ハ他
其權理ヲ支配セラルカ等能シ其國勢ト事
情トヲ詳ニカニシテ考察スル中ハ自カラ悟
ルトナル可シ只願リハ廟堂ノ諸公能シ此理
由ニ著意シテ敢テ論者ノ為メニ惑ハサル
ト無カラシム

第二綱
直接貿易ノ為メ政府ニ於テ一千万圓ノ資本ヲ
備ハ為替運轉ノ法ヲ設定ス可シ而シテ別ニ利

息ヲ徵課セス其功用ノ目五ツアリ左ノ如シ

第一目

第一綱中攀ルル所、六目ハ皆直接ノ事業ニ當セサル無シ而シテ其本又皆總括シテ本綱ニ在リ故ニ賞本運轉ノ切用最モ主眼トス

第二目

今一千万圓、紙幣ニ一割ノ利息ヲ賦シ運轉スルト假定セヨ即チ利息ノ惣計百万円トナル然ルニ今一割ノ利息ヲモ賦セス為替ニ運轉スレハ空シク百万圓ノ利益ヲ損スルノ譯ナレモ其間接ノ利益蓋シ頗ル大ナリ其故ハ直接ノ事業ニ依リ凡ソ三年ヲ

一期トシ其間内地物産ノ改良ニ赴リヤ必ス著シルシ此改良上ニ得ル所ノ利益ヲ概シテ五十萬圓ト推算シ他ノ五十萬圓ハ正金為替ノ線路ヲ開キ復タ洋銀ノ媒介ヲ要セサルノ點ヨリ間接ニ償フモノトスレハ直接ニ一割ノ利息ヲ得シモノト全國貿易ノ権理ニ對シ損益ノ大小幾許ソヤ

第三目

既ニ直接事業ノ為メ正金銀行ニ下付ノ三百万圓ハ蓋シ只其名ノニシテ其實未タ百万餘圓ニ品キナルナリ然レモ三百万圓ノ名ハ製産者ニ對シ既ニ著心シキ切用ヲ現ハセリ試ニ本年横濱市場ニ於テ蚕卵生

大歳小省

茶、景況ヲ見ヨ内商ハ皆三百萬圓、各々
城郭トナシ泰然動カス一時相對峙スルノ
勢ニ際シ果然直接輸送ノ策ニ出ツルモ、
アリテ大ニ外商ノ奸策ヲ敗リ初メテ内商
カ自カラ賣價ヲ左右スルノ權ヲ有シタリ
其名僅カニ三百萬圓ナルモ其功用ノ大ナ
ルヲ此ノ如シ況ヤ一十萬圓ノ功用ニ於テ
カヤ

第四目

通常ノ銀行カ内地ニ於テ其資本ヲ運轉ス
ルニ一割半乃至二割ノ利息ヲ賦スルモ、
トセハ其利益トナルヤ疑ヒ無シ然レモ此
利益タルヤ只銀行ノ一部ニ止マルノニ所

謂内幕ノ利益ニシテ其功用甚々狭シ今政
府ノ運轉スル三百萬圓ノ功用ハ普ネリ各
地製産者ノ髓腦氣骨ニ及ヒ公益起
ル所固ヨリ銀行カ資本ノ運轉ト同日ノ論
ニ非ス現ニ各製産者カ協同團結シテ四方
ニ振起スルモ、ハ只三百萬圓ノ名ニ刺衝
セラレテ奮勵セシナリ況ヤ一十萬圓ノ名
全國製産者ニ對スルハ切用ニ於テヲヤ

第五目

諸官省ノ定額ヲ減シ酒稅ヲ增課シ政府ニ
於テ効メテ資本ヲ充實スルハ一時已ムヲ
得サルノ策ニシテ減額ノ官省ト增課ノ酒
家ニ在リテハ多ク困難ノ場合アル可シ然

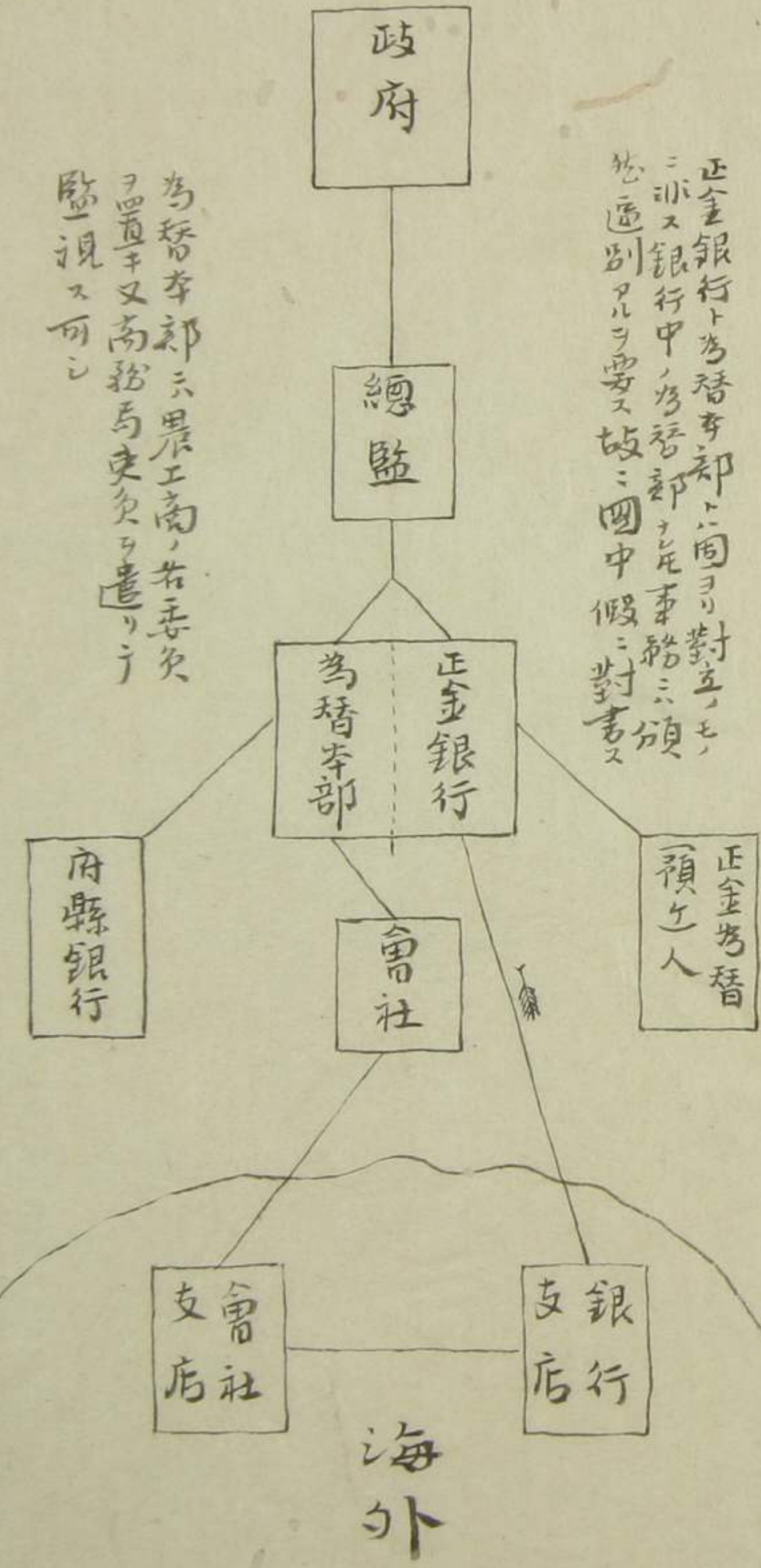
レ其減額シ増課シテ得ル所ノ資本ノ功
用ハ他日官省ニ對シ酒家ニ對スルモ均シ
ク十分ノ成果ヲ与フ可シ設令ハ今爰ニ定
額一百萬圓、官衙アリ其二割即二十萬
圓ヲ減シ八十萬圓トナサハ一時相當ノ省
畧ヲナサレハ或ハ困難ヲ生ス可シ然レ
氏他日減額二十萬圓、切用ニ依リテ八十
萬圓ノ額ハ眞正ノ價格ヲ得テ其切用ハ最
初ハ一百萬圓乃至一百二十萬圓ト同一
ノ括ニ至ル可シ故ニ現今政府ニ於テハ免
メテ費用ヲ節減シ増課ス可キ、稅ハ免メ
テ増課シ以テ資本ヲ充實セシメ益ス其切
用ヲ大ナラシム可シ

第三編

現今資本ノ為替ハ七會社ニ限ル可シ此事或ハ
公平ナラサルノ嫌アル可シト雖氏決シテ然ラ
ズ其切用ノ目三ツアリ左ノ如シ

第一目

今ヤ貿易ノ會社續々興起スルノ勢アリ各
會社トモ皆其設立ヲ許ルニ為替ノ事ヲ許
ルス中ハ每會社カ運轉ノ切用甚々狭少ニ
傾キ終ニ相共ニ斃ルカ或ハ海外取引ノ
景況現今横濱ニ於ケルカ如キ弊害ヲ生ス
ルニ至ル可シ故ニ宜シク之レカ制限ヲ立
テ當初ノ間ハ七會社ト定ム可シ但シ若製



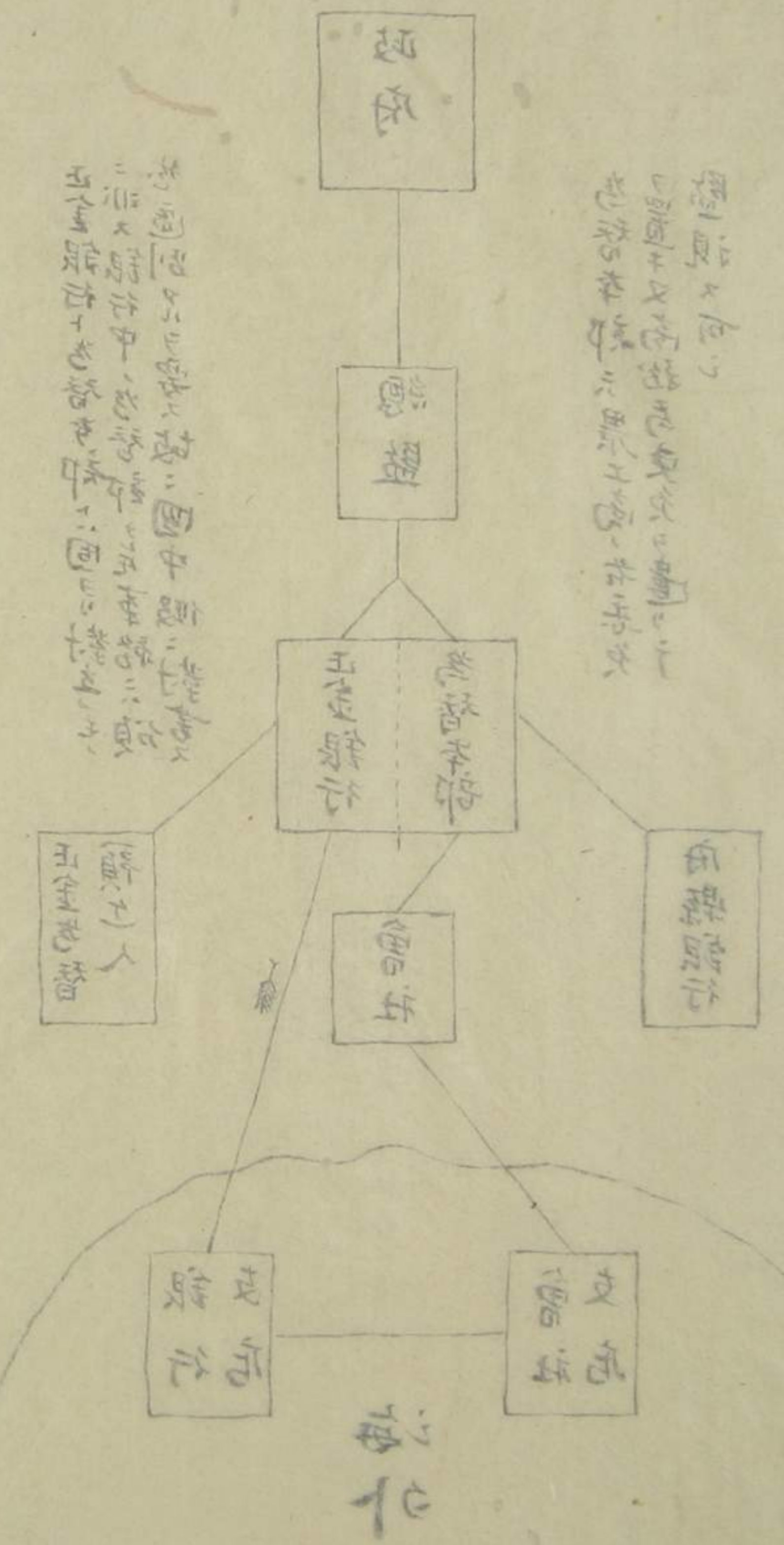
産者ニハ別ニ制限ヲ設ケサルモ妨ケ無シ
第二目

七會社ニ限リ為替ヲ許ルス中ハ互ニ競進
ノ氣勢ヲ勵マシ益確實ノ方法ニ據リ毫モ
外商ノ抑壓ヲ受ケルヲ無ク自カラ賣價ヲ
支配スルノ権理ヲ有スルヤ確シ

第三目

七會社ノ設立確定シ實際ノ事業ニ從フ中
ハ大ニ全國ノ面目ヲ改メ其既ニ向ケタル
モ、ハ益貿易ノ眞理ヲ窺ヒ知リ其未タ向
ケサルモノモ進ニテ其道ヲ求メ可シ即
チ七會社ハ全國製産者ノ指針トナリ貿易
ノ線路ヲ開通スル一大要具ト謂フ可シ

○為替、事、閉スル條
 為替、資本、一千萬圓、定、海外直輸出、為
 ノ七會社、為替、事、專務、トス可シ
 直接事業、為、正金銀行中、別、為替本部、置
 キ、專、ハ、一、千、萬、圓、運、用、即、チ、直、輸、出、物、品、
 為替及ヒ内地前、為替等、ヲ、專務、ト、セ、シ、正金
 銀行、事務、ト、領、然、區、別、ヲ、立、テ、其、正、金、ト、ナ、リ
 テ、收、入、セ、シ、後、始、メ、テ、正、金、銀、行、ト、扱、ヒ、歸、セ
 シ、メ、其、間、事務、混、同、凌、辱、セ、サ、ル、ヤ、ウ、預、メ、規
 程、ヲ、設、ク、可、シ
 各府縣、直、輸、出、品、製、廳、下、銀、行、ハ、為、替、本、部、即
 チ、正、金、銀、行、ノ、支、店、ト、看、做、ス、可、シ
 各府縣、銀行、ハ、直、輸、出、為、ノ、訣、府、縣、製、産、會



為替、事、閉スル條
 為替、資本、一千萬圓、定、海外直輸出、為
 ノ七會社、為替、事、專務、トス可シ
 直接事業、為、正金銀行中、別、為替本部、置
 キ、專、ハ、一、千、萬、圓、運、用、即、チ、直、輸、出、物、品、
 為替及ヒ内地前、為替等、ヲ、專務、ト、セ、シ、正金
 銀行、事務、ト、領、然、區、別、ヲ、立、テ、其、正、金、ト、ナ、リ
 テ、收、入、セ、シ、後、始、メ、テ、正、金、銀、行、ト、扱、ヒ、歸、セ
 シ、メ、其、間、事務、混、同、凌、辱、セ、サ、ル、ヤ、ウ、預、メ、規
 程、ヲ、設、ク、可、シ

社ニ向ヒ確實ナル地券又ハ公債證書等、抵
當ヲ取リ為替ヲナス可シ尤モ製産ノ物品海
外ノ輸出ニ適スルカ否ラサルカハ預メ七會
社中ノ鑑定ヲ受ケ鑑定濟ノ物品ニ非サレハ
根リニ為替スルヲ許ルサス故ニ七會社ハ輸
出物品ニ就キ製産者及ヒ銀行ニ對シ販賣上
ノ責任ヲ負擔ス可シ

目今直輸出、為メ團結ニタル會社ニ確實ナル
抵當ヲ備ヘ且ツ製産ノ物品ハ海外輸出ニ最
モ適要ナル蘭糸又ハ製茶等、如キモノニテ
實際積出シ、前仕入或ハ荷造等ニ費用ヲ要
スル中ハ相當、前為替ヲナスル可シ
海外ニテ七會社ヨリ輸入スル物品、為替ニハ

相當ノ利息ヲ賦スルヲアル可シ尤モ利息ノ
割合ニ依リ或ハ外國銀行ニ依頼スル、弊ヲ
生ス可シ故ニ右割合ハ成丈ケ斟酌シテ相當
ニ定ム可シ

各地製産者カ直輸出ノ物品ニ七會社鑑定ニ對シ為
替ノ利息ハ預メ定メス右ハ物品ヲ開港場ニ
積出ス、日ニ當リ相場ノ景況ニ依リ直輸出
スルト地賣スルト利益上何等カ差違アル中
ハ直輸出ヲ止メ地賣スル、弊ヲ生スルヲア
リ此、如キ場合ニハ一割乃至八分ノ利息ヲ
賦シ直輸出者ニハ無利息ト定メ免カソテ地
賣、弊ヲ抑止ス可シ

自今外國公使領事館ノ費用及ヒ公債利子、拂

入諸官省購入品等正金銀行ヨリ為替スル時
ハ其時相場ニ依リ為替本部ニ依託シ送致ス
ルトニ定ム可シ左スレハ是レマテ外國バン
クニ收入シタル利益ハ全ク正金銀行ノ手ニ
歸シ一十萬圓ノ額ニ自カラ多數ノ増加ヲ見
ル可シ故ニ正金銀行ニ於テハ右一十萬圓ノ
金額ニハ決シテ著意セス初メヨリ無キモノ
ト看做シ只外國バンクハ為替ヲ依託シ來リ
タルモノヲ為替本部ニ取リ替ユルマテノ事
ト思フ可シ是レ即チ正金銀行カ運用ノ妙ヲ
得ルモノト謂フ可シ
前為替ノ事ハ各地製産者ノ目途アルモノニ限
リ許可スヘシト雖モ七會社ニ對シテハ決シ

テ此事ヲナサス會社ニハ輸出ノ物品現ニ積
出シ、時ニ當リ初メテ為替ヲ許ルスモノト
定ム尤モ七會社ノ成立確定シタル後十分ノ
信用ヲ置クニ足ル可キ地位ニ至ル中ハ為替
ノ特別ニ抵當ヲ要セサル可シ
為替ノ物品ヲ海外ニ輸送シ然後約定期日マテ
ニ在外正金銀行之ツルレスポテンシニ納金シ能
ハサルノ會社アルトキハ右期限後ヨリ若干
ノ利息ヲ賦シ且ツ右納金未済中ハ更ニ為替
ヲ許ルハル可シ
各府縣下ニテ為替本部ノ支店ト看做シタル銀
行ニハ為替惣高ノ二分乃至三分ノ割合ヲ以
テ手数料ヲ下渡ス可シ故ニ萬一製産者ニ於

テ返納ニ差支ルヲアル中ハ渾テ右銀行ノ責
任ト定ム可シ

○七會社ニ関スル條

七會社カ輸出スル物品ニ限リ免稅、特許ヲ与
フルハ到底行ハレ難シト雖氏毎回、輸出ニ
一々關稅ヲ賦課スルノ手續ヲ省キ一年一度
乃至二度ニ纏メテ收稅スルノ特例ヲ与フ可
シ

七會社カ物品、為替ヲ受ルル中ハ若干ノ物品
ハ巴里ニ送り若干ノ品ハ龍動ニ送ル其賣捌
金額ハ著荷以後幾日ヲ限リ在佛銀行支店ニ
納ム可キ高何程在英支店ニハ何程ト明瞭ニ

仕譯ヲナシ銀行ト約定ヲ立ツルモノトス此
約定ニ依リ別ニ抵當ノ物品ヲ要セサル可シ
七會社成立ノ趣意ハ會社自カラ會社ノ物品ヲ
販賣スルト各地製産者、依托ヲ受ケ販賣ス
ルト、ニツニ定メ其區分ヲ立ツルカ或ハ各
會社トモ輸出ノ物品ヲ區別シ其制限ヲ立ツ
ルカ設令ハ三井物産會社ニハ製茶、貿易商社
ニハ蘭糸、扶桑會社ニハ海産ヲ限ルノ類、如
シ又或ハ會社ニ應ジ賣先キ、國ヲ限ルトス
ルカ設令ハ三井物産會社ハ英吉利、貿易商
會ハ佛蘭西ニ佐藤組ハ阿米利加、扶桑會社
ハ以太利亞ニ等ノ如シ
七會社ハ内地各製産者ト密著ノ關係ヲ有シ常

ニ製産者ノ信用ヲ得ルニ注意スルハ勿論各
物品販賣ノ景況ヲ製産者ニ報道スルノ責ヲ
モ負フ可シ故ニ會社カ物品ヲ輸送スルニ就
キテハ各會社共ニ一定ノ手数料ヲ与フル
ニ定ム可シ且ツ右ノ外為替ノ金額ニ對シ銀
行ニ収ム可キ利益ヲ會社ニ与フルトセン
カ然ルハ海外ニテ物品販賣ノ時甚タ便利
ヲ得ルヲアル可シ設令ハ今百個ノ生糸ヲ佛
國ニ送りタルト假定セヨ之レヲ賣却シテ正
金ヲ銀行ニ返付スルニ約定ノ期限アルニハ
勅メテ速ニ販賣ノヲ謀ル可シ然ルニ此期
限内ニ販賣スレハ相場僅カニ一萬圓ナリ期
限ヲ過ッレハ幾許ノ高價ニ販賣シ能フノ見

込ミアルモ期限ヲ過ッルハ利子ヲ拂ッカ
故ニ看ス々廣價ニ販賣スルノ場合アル可シ
此場合アルニ臨ミ最初為替ノ金額ニ對シ幾
分カ利子ヲ得ルヲアルハ期限後拂フ可キ利
子ノ割合ト差引非常ノ損失ナラスト看認ム
ルハ断然期限内ノ販賣ヲ見合ハセ十分ノ
高價ニ賣却スルヲ得可シ

○内地製産者ニ関スル條
内地製産者ノ内自カラ其性質ヲ異ニス之レヲ
區分スレハ二類アリ其一類ハ肥前有田ノ陶
器西京西陣ノ織物如キ其地ニテ各自其業
ニ就キ物産ヲ製シ且ツ販賣スル者ヲ云フ他

一類ハ上州前橋群馬縣、改良會社江州大津滋賀縣、集産會社、如ク其地方、製産ヲ集合シテ一手ニ販賣ナス者ヲ云フ

第一類、製産者ハ各自其物品ヲ製造シ直ニ七會社ニ就キ其販賣ヲ依託シ得可キ、性質タルカ故ニ銀行、前為替ヲ要セス

第二類製産者、目的ハ數多、製品ヲ各自ニ販賣スル中ハ徒ニ其販賣ヲ競フテ自カラ賣價ヲ低下セシメ随ツテ物品、粗悪ヲ來タスカ

為メニ價格ヲ維持シ物品ヲ改良スルニ在リテ奮志ノ者相集リ五十萬乃至七十萬圓、株金ヲ備ヘ各自、製産ヲ纏メ一手ニ販賣スル性質タルカ故ニ第一類ニ比スレハ事業甚

ク大ニシテ其任亦甚ク重シ仍テ此類ノ製産者ニハ官ノ保護ヲ以テ相當、前為替ヲ要ス可シ尤モ會社成立ノ確不確ハ該府縣廳ノ保證ト其製産ハ七會社鑑定済ノ者ニ非サレハ前為替ヲナサ、ル可シ且ツ其高ハ凡ソ株金、三分一乃至五分、一ト制限ヲ立ツヘシ若シ制限無ケレハ會社ノ株金ハ他ニ流用シ後ニ官ノ為替ヲ仰クノ弊ヲ生ス可シ
前為替ハ各地銀行支店ヨリ製産者ニ對シ横濱又ハ他ノ商港場ニ物品ヲ積出シマテニ限リ取リ組ムモノトシ其品海外輸送ノ時ハ轉シテ會社ノ引受トナリ為替ノ性質ヲ変ス可シ

